

INTRODUCTION



はじめまして、ふじのくに地球環境史ミュージアムです!

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、自然史と環境史を研究領域とする全国初の博物館です。校舎を再活用することでハード整備にかかるコストを抑える一方で、地球環境史における世界水準の研究者と、幅広い自然史の知識を有するNPO法人静岡県自然史博物館ネットワークなど、博物学の第一人者が集う「知の拠点」として、ソフトパワー重視のミュージアムを目指します。

館長

やすだ よしのり
安田喜憲

1946年三重県生まれ。東北大学大学院理学研究科修了、理学博士、静岡県補佐官(学際担当)。広島大学助手、国際日本文化センター教授、東北大学大学院環境科学研究科教授などを歴任。2007年紫綬褒章受賞。2013年度に開催されたミュージアムの基本構想検討委員会の委員長を務め、博物館構想推進の原動力となった。2015年ふじのくに地球環境史ミュージアム館長就任。

研究員紹介



しげかわ こういち
渡川浩一

1969年兵庫県生まれ
[専門] 魚類分類学



かしわぎ としあき
岸本年郎

1971年大阪府生まれ
[専門] 昆虫分類学



やまだ かずよし
山田和芳

1974年愛知県生まれ
[専門] 自然地理学



たかやま こうじ
高山浩司

1978年東京都生まれ
[専門] 植物系統進化学



ひろなか しゅんいちろう
日下宗一郎

1982年岡山県生まれ
[専門] 自然人類学

博士からのメッセージ

地球は生きものである。私たち人類は150万種の生きものが地球上にいることを突き止めています。まだまだ私たちの知らない種類がたくさんいます。その中でも特に昆虫は「新種」がまだまだたくさん残っています。静岡にどんな昆虫がすんでいるのかも、まだ全てはわかっていません。みなさんもミュージアムと一緒に調べてみませんか。(岸本年郎)

春の花見。夏の山登りや川遊び、森の探検。秋の落ち葉拾いやどんぐり集め、そして冬の暖かい太陽と抜けるような青空。このまちには、豊かな自然の色彩があります。いま、地球は深刻な環境破壊が起きています。でも、私たちの祖先は、未来に住む私たちが悲しまないように、「ふじのくに」の自然環境を守ってきてくれました。次は、私たちの番です。(山田和芳)

MUSEUM DIARY

開館を半年後に控え、ミュージアムは日々その姿を変えています。創刊号では、改修工事を終えた2014年7月から現在までの歩みを駆け足で紹介していきます。

2014



08.01 新天地へ!

年の初めに始まった高校校舎の改修工事を終え、7月24日から8月1日にかけて、清水区の前身施設から30万点を超える化石や標本等の資料の引っ越しを行いました。

12.13 ミュージアム“整備中”見学会

見学会は二部構成とし、第一部では校舎から博物館への改修工事の成果をツアー形式で御案内しました。昆虫標本の収蔵室に変わったパソコン教室や、解剖室に変わった女子トイレなど、普通はなかなか入ることができないバックヤードも見学してもらいました。第二部は、山田准教授、岸本准教授によるプレゼンテーション。それぞれの専門分野から静岡県の特徴を解説するとともに、館の理念に触れ「百年後の静岡が豊かであるための活動をしていく」ことを宣言しました。



2015

04.01 ふじのくに地球環境史ミュージアム始動



県の組織として「ふじのくに地球環境史ミュージアム」が正式に発足。新たに3人の研究員が加わり、館長として安田喜憲氏が就任しました。開館に向けての最後の1年がスタートしました。

06.03 「ミュージアムキャラバン」巡回開始



開館に先立ち、新感覚の移動博物館「ミュージアムキャラバン」が、県内全域の小中学校等に向けて巡回を開始しました。記念すべき第一校目は、ミュージアム最寄りの静岡市立大谷小学校。組立式の展示ユニット「昆虫の世界」を運び込み、暗幕・照明等の演出効果を加えることで、特別教室が、さながらミュージアムの一室のように大変身しました。展示が始まると子どもたちが次々と教室に飛び込み、標本箱に顔を近づけて熱心に見入っていました。

07.29 池の生き物救出作戦



ミュージアムでは現在、中庭の外構工事を進めており、学校当時からあるクスノキと人工池を活かし、ウッドデッキを通して水際に出られる空間を作っています。この工事のために、池の水を一旦抜かなければいけないのですが、閉校から2年半に渡りこの人工池を放置していた結果、トンボやアメンボ、メダカにモリアオガエル(!)などの生き物がすむ空間に変貌していました。そこで岸本准教授や高山准教授の提案により、水抜きの前に「池の生き物救出作戦」を決行。猛暑日にも関わらず、情熱的に池の昆虫や魚をバケツに救出していきました。

MUSEUM DIARYはfacebookからもご覧になれます。 <https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum>